

第1学年 けやき学習（総合的な学習の時間）学習指導案

指導者 小笠原 健浩

- 1 日時 平成28年7月1日(金) 公開授業① 第1校時
- 2 学級 上田中学校1年4組 男子20名 女子18名 計38名 南校舎4階1年4組教室
- 3 主題 「なぜ働くのだろう」
- 4 主題について

1学年に行う「けやき学習」は、「職業調べ」と「小学校訪問」を中核に据えて学習していく。本単元は2学年で行う「職場体験」や3学年で行う「修学旅行自主研修」につながっていく学習であるため、将来の自己の望ましい生き方・在り方を探究するための素地を養う役割を担っている。本単元では、「なぜ働くのだろう」というテーマを追究していく。まずは単元を通してのテーマ「なぜ働くのだろう」について自分の考えをもたせる。そして、身近な職業人へのインタビューや職業調べを通じた探究活動の中で、考えの深まりや変容を実感させたい。学習指導要領との関連性については、第3の2(7)「職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。」を主と捉え、適切な勤労観や職業観をもてるように指導を進める。

生徒は、前単元「幼いころの自分を知ろう」の中で、「インタビュー」という調査方法で家族から情報収集する学習活動を行った。家族から聞いたことで、自分が知らなかったことに気付いたり、他の人とのかかわり合いから相手についてより深く理解したりと、インタビュー活動の効果を実感したようである。本単元においても、家族などの周囲の大人にインタビューしたことを基に、「なぜ働くのだろう」について探っていく中で、前回の学びをいかして、インタビューに取り組み、分析していくことで深い学びにつながると考えられる。そして、情報収集や整理・分析の方法についても広げていきたい。

本単元では、職業について調査・分析をし、働く意義や自分自身の将来像を考える活動を進める。その際、生徒が必要を実感して、主体的に学習に取り組めるように、思考ツールの選択・活用やかかわり合いなどを展開していきたい。また、単元を通して「なぜ働くのだろう」を追究させ、主体的に人生計画を立て、進路を選択し決定できる力の素地を築かせたい。

5 指導と評価の計画（別紙）

6 本時の目標

学習方法	学習テーマを追究するために、適切な課題を設定している。 〈生徒の記述例〉 私は、自己課題を「企業の活動は社会のためになっているのか」に設定しました。なぜなら、前回までのインタビュー活動では自分の考えた「なぜ働くのだろう」の理由である、家族を養うためや生活を豊かにするためということについては分かったが、社会のためになるという考えについては明らかになっていないので、調べたいと考えたからです。
------	---

7 本時の指導構想

(1) 本時のねらい

本時は、前時までの活動を受けて、単元テーマ「なぜ働くのだろう」について、さらに考えを深めるための自己課題を設定させる。

(2) 「論理の意識化を図る学習活動」に関わって

【考えがいのある課題設定】

学習課題を「職業調べの自己課題を設定する」と設定する（2 学習課題を把握する。）。

課題解決の基になるのは「それぞれが選択した方法で自分の考えやこれまでの学習を『整理・分析』したもの」である。これは前時までで生徒がまとめている。前時までで明らかになっていることや、そこから生まれた疑問、新たに知りたいと感じたことを明らかにし、それぞれの自己課題設定につなげたい。

【「論理の思考型」を用いた言語活動】

思考の方法を生徒自ら主体的に選択していくことになるため、論理の思考型は限定しない。

ただし、2回目の自己決定では、類別思考や類推思考を用いて説明させたい（5 自己課題を設定し設定理由を記述する。）。

【かかわり合い】

本時では2度のかかわり合いを設定する。

1度目は自己課題を設定した後、考えを交流する場面である（4 設定した自己課題を交流する。）。様々な視点に気付くことや、自分の考えを深めるために行う。

2度目は再考した自己課題とその設定理由を全体で発表し合う場面である（6 設定した自己課題を全体で交流する。）。それぞれが設定した自己課題を交流することで、自分の自己課題との共通点や相違点に気づき、考えを深め、今後の調査活動への意欲につなげていきたい。

【自己評価活動】

終末において自己評価活動を行う（7 自己評価を行う。）。

前回までの学習を振り返り、改めて整理することで課題意識が生まれてきたことや、かかわり合いを通して、自分の考えが変容したり、深まったりしたことを記述させたい。

指導と評価の計画

3年 けやき		単元名 「自分をみつめる」		総時間	28時間扱い
学習指導要領の指導事項				単元の目標	
第3の2 (2) 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。 (5) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導にあたるなどの指導体制についても工夫を行うこと。 (7) 職業や事故の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。				「自分史の作成」とそれに向けた取り組みを通して、自己を客観的にとらえ、現在あるいは将来について自分の望ましい生き方・在り方や目指す姿を考える能力や態度を育てる。	
学習方法		自分自身		他者や社会とのかかわり	
課題設定		表現		計画・実行	
将来の自分像を客観的に捉えた上で、将来の自分像を考えると自分にとって価値ある課題を設定している。		自分自身について調査した内容や将来の自分像について、文章でわかりやすく表現している。		自己課題に対し、課題を解決するための計画を立て、計画を見直しなが	
				将来展望	
				他者理解・協同	
				自己の成長をとらえ、今の自分、また今後の自分の生き方・在り方について考えをもっている。	
				仲間と協同しながら、他者の良さも認め、自分自身を客観的に捉えている。	
時	主な学習内容	おおむね満足 (B)	十分満足 (A)	評価事例	
1 (本時)	・自分史オリエンテーション	課題設定 自分自身を客観的に捉えるために他者とのかかわりが大切であることに気が付き、これからの学習に意欲をもつことができている。	・自分自身を客観的に捉える方法を考え、学習を進める方法を考えている。	6 自分史の作成で学ぶことを考える場面 『「自分史の作成」で何がわかるか』という問いに対して、理由を明らかにしながら、自己決定する場面。 ■おおむね満足 (B) ■十分満足 (A)	
2 ・ 3	・自分史の作成の自己課題設定	課題設定 自分自身を客観的に捉えた上で、将来の自分像を考えると自分にとって価値ある課題を設定している。	・将来の自分像に対し、今の自分に足りない部分や必要な力をイメージして課題を設定している。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> 「自分史の作成」では、これまでの自分の人生について振り返るだけではなく、この取り組みを通して、これからの自分の進路に生かせるようなことを学びたい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%; margin-left: 10px;"> 「自分史の作成」では、これまでの自分の人生について振り返るだけではなく、これからの自分の進路に生かせることが学べると思う。そのために、まずは自分の親や友人にインタビューをして、自分が気付かなかった自分のことを知り、今後の進路選択に生かした </div>	
3 ・ 4	・自己課題をもとにした計画立て ・目次の作成	計画・実行 自己課題に対し、課題を解決するための計画を立てることができる。	・行事予定だけでなく、部活動や自分のスケジュールにあった計画を立てている。		
5 ・ 6	・調査活動について	他者理解・協同 仲間と協同しながら、調査活動の準備を進め、自分の考えを伝えたり、他者のよさを受け入れたりしている。	・自分の考えについて、理由を論理的に説明することができている。	自分自身を客観的に捉えるために他者とのかかわりが必要であることに気が付き、これからの学習に意欲をもつことができている。 【C：指導の手立て】 これまでのさまざまな出来事や出会いが今の自分につながっていることに気づかせ、将来の自分にも、そのようにつながっていることに気付かせる。	
7	・調査活動のまとめ	計画・実行 計画を確認し、見直しながら実行している。	・計画の修正を細かく図ることができている。		
1 ・ 3 ・ 5	・自分史の執筆 (これまでの自分)	表現 自分自身について調査した内容をわかりやすく表現している。	・主観的な記述だけでなく、客観的に物事を捉えて表現している。		
2 ・ 4 ・	・自分史の執筆 (将来の自分)	表現 自分自身について、調査した内容をもとに、将来の自分像について、文章でわかりやすく表現している。	・将来の自分像に近づくために具体的な見通しをもって記述している。		

2 6 ・ 2 7	・自分史の製本・発表	<p>表現 自己課題に沿って相手に伝わるように表現している。</p> <p>将来展望 自己の成長をとらえ、今の自分、また今後の自分の生き方・在り方について考えをもつ。</p>	<p>・読み手がわかりやすいようにまとめている。</p> <p>・具体的な将来像をもち、これからの自分に必要な学びは何か、考えている。</p>
2 8	・「自分史の作成」のまとめ	<p>将来展望 「自分史の作成」に取り組んだことについて、自己課題に対する自己評価を行っている。</p>	<p>・自己課題の達成にむけた学習活動となり、成果が結論づけられている。</p>

指導と評価の計画

1 年 けやき		単元名 「なぜ働くのだろう」		総時間	9時間扱い
学習指導要領との関連				単元の目標	
<p>第3の2</p> <p>(2) 問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。</p> <p>(5) グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導にあたるなどの指導体制についても工夫を行うこと。</p> <p>(7) 職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること。</p>				<p>「なぜ働くのだろう」を追究すべく「職業調べ」の取り組みを行う中で、主体的に人生計画を立て、進路を選択し決定できる力の素地を養う。</p>	
学習方法				自分自身	他者や社会とのかかわり
課題設定		収集分析	表現省察	将来展望	他者理解・協同
学習テーマを追究するために、適切な課題を設定している。		学習テーマや自己課題を追究できるように情報収集の方法や内容を工夫し、整理している。	学習の成果を、要点を押さえてまとめ、発表している。	働く意義について、様々な情報から捉えなおし、自分の考えを明らかにしている。	他者の意見を尊重して、良さを受け入れたり、自分の考えを伝えたりしている。
時	主な学習内容	評価規準		評価事例	
1	・オリエンテーション	将来展望 働く意義について、自分の考えを明らかにしている。		<p>6 自己決定を行う場面 学習課題「職業調べの自己課題を設定する」に対して、自己決定する場面。</p> <p>■生徒の記述</p> <p>私は、個人課題を「企業の活動は社会のためになっているのか」に設定しました。なぜなら、前回までのインタビュー活動では自分の考えた「なぜ働くのだろう」の理由である、家族を養うためや生活を豊かにするためということについては分かったが、社会のためになるという考えについては明らかになっていないので、調べたいと考えたからです。</p> <p>私は個人課題を「看護師におけるプロフェッショナルとは何か」に設定しました。インタビューで父が、プロフェッショナルについて話していたので、私は将来看護師の仕事に就きたいと考えており、看護師の仕事のプロフェッショナルとはどういうことかを知りたいと考えたからです。</p> <p>前時までの学習内容を整理して、新たな課題を設定している。</p>	
2・3	・インタビューの質問づくり ・発表に向けた整理・分析	収集分析 学習テーマを追究できるようにインタビューの内容を工夫している。そして、集めた情報を整理している。			
4	・インタビューを受けた表現	他者理解・協同 他者の発表をよく聞き、良さを認め、自分の考えに反映させている。			
5(本時)	・自己課題設定	課題設定 学習テーマを追究するために、適切な課題を設定している。			
6・7・8	・職業調べ ・調べたことから考察	収集分析 学習テーマや自己課題を追究できるように情報収集の方法や内容を工夫し、整理している。			
9	・発表、評価	表現省察 学習の成果を、要点を押さえてまとめ、発表している。 将来展望 働く意義について、これまでの学習から捉えなおし、自分の考えを明らかにしている。			